



寺院名物シリーズ⑨ 邑智東組・眞清寺

磯七同行顕彰碑：『妙好人伝』に紹介された磯七同行は当寺の門徒であり、今もその子孫がおられる。宝暦年間に生まれ嘉永4 (1851) 年に90歳で往生された。その生涯は伝記にみられるとおり篤信な念佛者であり、有福の善太郎同行と親交があったようだ。眞清寺第11世順命は識徳備わった学僧で、磯七同行とは同時代の人であり、少なからぬ交流があったと思われるが、明治の本堂落雷大火により、それを窺う資料等が焼失している。

顕彰碑は孫にあたる町田みす氏が建立され、昭和54 (1979) 年に経蔵わきから現在の場所へ移設された。

山陰

編集 山陰教区基幹運動推進委員会
発行 山陰教区事務所
〒900-0001 松江府大正町四三ノ一 本願寺山陰会館
TEL 〇八五二 四七四七
FAX 〇八五二 四八三五一
発行所 三明浄信

基幹運動推進の底上げと充実を図るために

山陰教区相談員 朝枝俊円

基幹運動総合基本計画が新たにたつて二年目を迎え、教区・組の基幹運動推進に向けての活動が本格的になってきた。いよいよ全国仏徒連盟結成を来年度に控え、また「全寺院子どものつどいーキッズサンガ」が新たな活動として加わるなど、その活動範囲は無限大。一方、「平和・ヤスクニ」や「差別問題」などの取り組みの中には遅々たるものがあり、中にはその広がりすら見出せない活動が生じてきているのも事実である。

こうしたことを受けて、取り組みの遅れや成果の上がらない基幹活動の底上げを図ることを目的に「組相談員研修会」を開催した。テーマに「我が組の活動 ― 得手、不得手をこえて」、 「先進組からの KNOW-HOW 伝授」と銘打った研修である。これはまた、教区の基推活動にも通徹する課題である。

また、今回は参加者を組相談員に限定せず、あえて各組担当者を加えて募集をしたところ、二十六組に対して四十四名の参加を得ることができたことは、各組の意気込みを感じられるものである。

研修会では、まず先進組からの提言を受け、さらに希望する分科会で提言者との質疑応答、まさに「KNOW-HOW」を伝授いただいた。提言の内容と提言者は別表の通りである。

分科会	テーマ	提言者
第1分科会	ビハーラ そのいのちの尊厳に	浜田組 渡部哲彦氏
第2分科会	連研から 門徒推進員への道	神門組 北島清秀氏
第3分科会	結成率100% 仏徒連盟結成の秘策	飯石北組 藤飛昭憲氏
第4分科会	今こそ平和・ヤスクニ 共にかがやく世界を	大田組 岡崎邦夫氏
第5分科会	人がいない子どもがいない どうするキッズサンガ	鹿足組 岡崎正興氏

一方、現行の教化団体や組織を見ると、男女別であったり役職別であったりと、個別の活動形態が見られるが、色々な組活動の場面に、みんなが一緒になって集う、「共に」という場が不足している感はない。

今回の研修内容として選ばれた活動の多くは、僧侶と門信徒、男性と女性が一堂に会して推進してゆかなければならないものである。課題の共有、共通の理解を深めていく場を持つことが求められている時代になったように思われる。

これらの活動を通じて、それぞれの教化団体や組織の活性化、そして基幹運動推進に向けてのさらなる充実を期待するものである。



第53回 中・四国地区仏教婦人会(若婦人)IN IZUMO

「あなたに会えて、ほんとうに良かった！」

本年は当教区担当で中・四国地区仏教婦人会(若婦人)大会が開催されました。

テーマを「いのちみつめて～キッズサンガ～あなたがいてくれるから」としました。「あなたがいてくれるから」という言葉の響きの中に、すべての人に通じる世界の広がり、阿弥陀さまの寄り添って下さるすがたを想い、すべての人に「あなたがいてくれるか

ら」と支えあっていきたいという思いから設定されました。

開会式では、教区内の女性僧侶五名と神門組仏教婦人会のコーラスグループ「コール蓮」のリードによる音楽礼拝でお勤めをいたしました。会場いっぱい、三婦依・さんだんのうた・ねんぶつ等の歌声が響き渡りました。

午前の西池文生先生の講演では「いのちのバトンに願いを込めて」ということを聞かせていただきました。児童念仏奉仕団参拝の折、「ありがたいねえ」とおっしゃった夫婦との出会い。小学生時代の学校の先生との出会い。友人の死……。さまざま「あなた」との出会いを聞かせていただきました。

午後からのパネルディスカッションでは、四名のパネリストからそれぞれの活動例を聞きました。「あなた」と支えあうその姿のひ

とつとして「キッズサンガ」があります。子ども会を開くという事だけでなく、子どもの居場所を作っていく活動です。パネリストからの「今日からあなたもキッズサンガ推進員です」という言葉に促され「あなた」と支えあう姿をめぐらして活動を展開していきたいと思いました。

最後になりましたが、開催にあたり、仏婦会員の皆様並びに神門組の皆様には多大なご協力賜りましたこと厚くお礼申し上げます。



Your Global Lifestyle Partner
株式会社JTB中国四国
松江支店

住所：島根県松江市菅田町180 原徳興産ビル2階
TEL：0852-23-2020(国内旅行) / 23-2024(海外旅行)
0852-23-6720(団体旅行)
FAX：0852-23-2023

パネリストからの提言

異年令交流で

仏の子を育てる

三隅組 龍光寺仏婦 齋藤 和美

私達龍光寺仏婦が取り組んでいる事は、法座に小学生の皆さんにお参り頂いている事です。きっかけは毎年三月に仏婦主催で卒業生を送る会という行事です。初めに正信偈のおつとめをして法話を聴き、記念の念珠を贈ったあと、お齋をいただいで解散となります。

しかし、年々正信偈のおつとめについてこれないという状態になり、二日ある法座の一日を小学生に来て頂き、お昼を一般の方と食べてもらい昼席のおつとめを一緒にして頂く様になりました。少子化で子供さんの数も減り淋しい所ですが、お年寄りの方は「あの子はどこそこの孫さんだ」という様に会話も増え、ほのぼのとした光景に思えます。

お寺に子供さんの姿があるという事は将来がたのしい気がします。ただ、現在はおつとめの練習の様な状態ですので、今後は一席でも聴聞出来る様になればと期待しています。そして、子供さんがお参りされ

る時に親御さんが一緒に来て頂ければ、家庭に帰って親子の会話も違ったものになるのではないのでしょうか。

子供の時に出会いがあると、きつと心に残り、途中途絶える事があっても、何か苦しみに遇った時にまたお寺に足が向くのではないのでしょうか。私達子供だった頃の様にお寺が皆の遊び場となり身近な所となる日が来る様、仏婦の皆さんと協力したいと思っています。また先輩の會員さん方が続けてこられた行事が次の若婦の方へ繋げていける様念じています。お寺で高齢者の方とかかわりを持ち聴聞する事は老病死についての気付き、他者への思いやりなどの心を育てるには何より有難い事だと思います。

親子共々に

松江組 真光寺仏婦 三上恵美子

第五十三回中・四国地区仏教婦人会大会「いのちみつめてーキッズサングーあなたがいてくれるから」をテーマにパネルディスカッションに参加させていただきました。出雲市出身で故人となられた武蔵野女子大文学長であられた雲藤義道先生が、

その著書の中で、「幼児時代に教わったことは一ぺん忘れず。だが必ずや、心の深き奥底にそのことばは生きていて、息づいておる」と、篤信なおばあさんに育てられた幼年期をふりかえって話しておられます。

私は、小学校高学年の頃、なかば強引に母にお寺に連れられてお参りし、その法話の中で、わがままでみにくい心の性格に気づかされました。その後、自然にお聴聞を喜ぶ身になさせていただきました。三人の子を持つ親として、子供たちにも是非この尊い御法にあわせたいと、日曜学校をなさっているお寺を尋ねて、真光寺様にお出会いすることができました。幼児期から毎月一回催される日曜学校に子供たちはとても喜んで通ってくれました。合掌礼拝の礼儀作法、お念仏は自然と身について出ます。雲藤先生は、人間教育は見習いからはじまるとも言われ、人格形成の上に大きな影響を与えている親としての「自分自身」がどうあるべきかを考えたとき、まず私が正しい教え、聖なる導きに耳を傾けて生活させていたただかなくてはならないと思いを新たにいたしております。

仏壇・寺院用品・製造・修復

報恩感謝

ぶつだんの

内田 裏造 商店

木次 ☎ (0854) 42-0266 下熊谷 ☎ (0854) 42-3711
出雲 ☎ (0853) 21-3253

御本山  用達

株式会社

川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

(600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367 (代)

FAX (075) 371-5088

「中・四国ブロック 真宗青年の集い」

九月一日(土)～二日(日)、四州教区徳島西組安楽寺で行われた「中・四国ブロック真宗青年の集い」に参加いたしました。参加者総数は三十五名、山陰教区からは二名の参加でした。

研修テーマは「あたりまえってなんだろう?」。講師は、佐長道亮師。神戸の宗門校に勤務しているご講師は、日ごろから「あたりまえ」と思っていることについて学生と話し合っているとのこと。電気や水道の水など、普段あつてあたりまえと思っているものについて、よくよく考えてみると「あたりまえ」なものなど一つもなかった…。そんな身近なものとことから、もの見方が変わってくるというお話で、日常生活からの視点、仏教全般での視点、そして真宗としての視点、と少しずつ深めてお話しくださいました。

講義終了後は、コミュニケーションワークショップで班づくり。その分かれた班で「四国三郎の郷」へ移動し、バーベキューで盛り上がり、キャンプファイヤーで親睦を深めました。ギターと歌で踊り、ゲームを楽しみ、語り合うことが



出来ました。翌日は朝のお勤めの後、吉野川のラフティングツアー(激流下り体験)へ出発。参加したのは「おおぼけ半日コース」で、九時から昼過ぎまで激流下りを体験。安全説明をしつかりと受けた後は、激流の水しぶきの中で力を合わせて、パドルを漕いだり、淀みに思いっきり飛び込んだり潜つたりのスリルある体験ツアーでした。昨年山陰教区担当で自然に親しみ、今年四州教区担当で激流下り体験。そしていよいよ来年は備後教区担当で空を飛ぶそうです。

熱戦を展開

九月十日、雨で延期になっておりました寺族青年全国野球大会の準々決勝が京都の太陽が丘球場で行われ、勝ち残っていた山陰寺族野球部も出場しました。

準々決勝の相手は、過去何度も優勝経験のある東海教区との対戦でした。優勝候補が相手でしたが、若手のファインプレー連発、ベテランの堅実なプレーで、最終回まで両チーム無得点の好ゲームでした。最後は、相手の力が上回りサヨナラ負けを喫しましたが、ピンチの時に若手が率先して声を掛け合うなど、今大会を通じて、ますますチームが一つになり、それぞれが成長し、山陰教区の若い力の大きさを感じました。

また、十月三日、鳥取の布勢野球場において中四国地区寺族青年野球大会が行われました。

今回は山陰教区担当で、他教区の方が楽しく参加できるよう、右往左往しながらも、準備を進め、



寺族青年野球大会

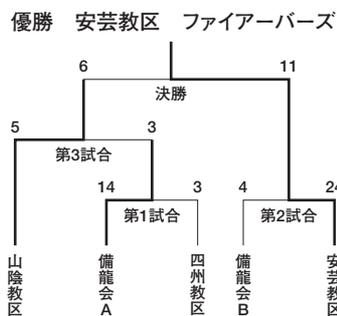
大会を迎えさせていただきました。

十月にしては暑い日となり、それぞれが体力の限界に達しながらも、持てる力を精一杯発揮し、最後まで戦い抜きました。山陰教区は決勝で安芸教区に敗れ、準優勝でしたが、普段なかなか出場する機会の少ないメンバーも今回は多く出場することができ、それぞれがのびのびと楽しくプレーしている姿が印象に残りました。

今回は自教区開催ということもあり、教区内の多くの方々のご協力やご支援を賜りましたこと、お礼申し上げます。

中・四国寺族青年軟式野球大会結果

平成19年10月3日(水)
鳥取市布勢野球場



二〇〇七中四国ブロック 講員研修会

十月十八日(木)～十九日(金)、温泉津組安楽寺を会場に開催しました。講師は同寺前住職梅田謙道先生にお願いし、三十二名が参加しました。

初日は梅田先生のご法話を頂き、特に才市さんの生涯を通してのご法話に、参加者は日頃からお聴聞を樂しみに励んでいる方々ばかりですが、異口同音に、まるで才市さんの姿が目に見えようかと、喜び合

ました。

夕事勤行を終え、旅館『のがわや』に移動し、懇親会、温泉津温泉につかって疲れを癒しました。

翌朝は同町西楽寺のお晨朝に参拝し、ご住職の懇切なるご法話を頂きました。朝食後、再び会場を安楽寺に移し、親鸞聖人七五〇回大遠忌についてのご消息を頂き学びを深めました。

正法興隆と宗門護持に尽くしている講社の歴史ある営みの一つとして、充実した実り多い二日間となりました。

龍谷顕真会

第四回国内研修会

十一月十四日(水)～十六日(金)、龍谷顕真会の第四回国内研修会が山陰教区で開催されました。

龍谷顕真会とは、浄土真宗本願寺派の僧侶で、地方自治体の首長や議会の議員および会の賛同者で構成された会です。僧侶として聞法につとめ、会員相互の連絡提携を密にし、宗門の組織的な社会的実践活動に寄与することを目的としています。

定期的に研修会を開催し今回は山

陰の妙好人を訪ねて、そして、世界遺産の石見銀山視察のため、山陰教区での研修です。

一日目は、有福の善太郎さんを訪ねて、福屋組・千田浄光寺に参拝。

二日目は、温泉津組西楽寺のお朝事に参拝。続いて世界遺産の石見銀山の視察。大森組西本寺ご住職にご案内いただきました。その後、小浜の才市さんを訪ねて、温泉津組安楽寺に参拝。翌日、解散となりました。

なお、山陰教区からは、窪田享信氏(大家組願林寺)、竺川紹隆氏(福屋組・久佐浄光寺)が参加されました。

『ビハラー活動二十年』さらなる飛躍を願って』をテーマに、全国からビハラー活動に携わる仲間が集い、ビハラー二十周年記念大会が十一月一日、本山にて開かれました。

開会式でご門主が述べられた「共に寄り添っているだけでも大きな意味があると思います」とのお言葉に、八年前の第十一期ビハラー活動者養成研修会を受講した頃が、思い出されました。受講する二年前に前住職を癌で

亡くしていた私は、もっとして

あげられることがあったのではないだろうか、掛けてあげられる言葉があったのではないだろうか、そんな独りよがりな思い

ビハラー二十周年記念大会に参加して

ビハラー鳥取 川本 みほ

を持つていましたが、研修を受

なりました。

講する中で、共に寄り添うことの大切さを学び、また同時にその難しさも痛感したことでありました。

ビハラー二十周年記念大会に参加して、様々な問題を抱える現代社会の中、人の痛みや苦悩に寄り添い、み教えに問い聞き

ながら学びを深め、ビハラー活動の実践に努めるべく、気持ち新たにさせていただきました。



平成十九年八月二十八日に「若寺族婦人研修会」が飯南町赤名の安楽寺にて開催されました。

当日は朝から大雨に雷と、大変に荒れた天気でした。会所地まで辿り着ける心配でしたが、無事に到着することができて安心しました。

「大変な雨の中お集まりいただいたのだから、決して損はさせない研修にします」と三明教務所長さんのうれいお言葉に、更に安心いたしました。

午前中は『お勤めについて—お正信偈を中心として—』という演題で、山陰教区勤式指導員の小笠原弘之先生の講義がありました。普段なにげなくお勤めしている正信偈が、自分の節や癖、そして地方節となっている事に気付かされ、正信偈の唱え方、お勤めの意義をしつかりと心に受けとめさせていただきました

した。これからは、学んだことを忘れずに正信偈をお勤めしたいと思います。

午後からは、近くにあるパン工房へ場所を移してパン作り体験をしました。私を含め初めての人がほとんどでしたが、奮闘した結果、ウサギ、カタツムリなど楽しい作品が出来上がりました。そして、ハーブティーを飲みながら一人ひとりの自己紹介があり、和気あいあいの内に時間が過ぎていきました。

若寺族婦人研修会に参加して

飯石北組 福泉坊 坊守 藤井佳恵

若寺族婦人研修会に参加して

子育てで忙しく、外に出る機会が少ない私ですが、このような和やかな研修会に参加できたことをうれしく思います。これからも、このような若寺族婦人が交流を深めることのできる楽しい企画をいただけたらと願っています。

赤ちゃんも参加、教区若婦人研修会

二〇〇七(平成十九)年八月五日(日)、美郷町山村開発センターにおいて山陰教区仏婦連盟若婦人研修会が開催されました。

ご講師は大家組西臨寺ご住職 荒本由未先生、参加者は一七〇名でした。講題は「仏心とは大慈悲これなり」として、午前は先生より基調講演をいただき、午後からは六班に分かれて班別の話し合いを行いました。全体会では各班からの発表が行われた後、まとめをいただきました。



また、話し合いでは普段から気になっていることなど含めて疑問点について広く質問を頂きました。若いお母さん方の質問は「こういうところがわからない」「なぜ」等、わからないところを素直に聞く、意欲に満ちたものでした。

若婦人大会ということで赤ちゃんを抱いたお母さんもちろほら見受けられ、和やかなムードの中の研修会となりました。子供連れで参加できる研修会の環境づくりの必要性を考えさせられた研修会でした。

基調講演の中で『仏説観無量寿経』より頂いた「仏心とは大慈悲これなり」について、阿弥陀さまと私、親と子との話を交えながらやさしく教えていただきました。

また、この度の山陰教区仏婦連盟若婦人研修会開催に向けて、佐波組の皆様には組を挙げて開催に向けて取り組んでいただきました。ありがとうございました。

僧侶研修会と教学座談会

九月十二日、十三日の両日、出雲市民会館を会場に僧侶研修会が開催された。合わせて昨年に引き続き教学座談会ももたれた。まず僧侶研修会の参加者は、二日間で延べ一七六名、内女性が二十名。教学座談会は六十七名の参加であった。

僧侶研修会は京都女子大学教授・普賢保之先生をお招きして、「浄土真宗における浄土の意義」についてご講義をいただいた。また教学座談会は「妙好人を考える」のテーマのもとに開催された。

僧侶研修会では、『がんばれ仏教』に上田紀行氏が、

「現在の日本仏教の何がいちばん問題なのか」と聞かれて、私は「僧侶が仏教を信じていないことでしょう」と答えたことがある。(中略)近代的教育を身につけた僧ほど、「あの世」について正面から訊かれると答に躊躇してしまふ。(中略)「浄土があ

るとは私の口からは言いにくい」と言わざるを得ない時代に私たちは生きていくのだ。

と代弁しているが、これらの課題をどう受け止めていくのかという点を支点にして研修を受けた。「観念の浄土」を巡って物議をかもした時代もあり、教学シンポジウムでも取り上げられたりする、古くて新しい、あの意味では永遠のテーマである。

教学座談会では、まず因幡組願正寺・衣笠告也住職より源左同行にまつわるお話をいただいた。これを受けて四個班に分かれて座談会をもった。

衣笠氏が紹介された「聖人のみ教えを味わわせていただくの二つの道がある。一つは聖人がお説きくださったお聖教の言葉に沿って味わわせていただくこと。もう一つはこの教えをいただいた人々の姿を通して、そういう人を育て上げた聖人のみ教えというものを味わわせていただく」というお言葉は、妙好人を考える上において重要なポイントであろう。

いじめ・自死(自殺)をテーマに

「連研のための研究会」

飯石南組・明覚寺 玉野 覚明

十月九日、本願寺山陰会館にて「連研のための研究会」が開催され、各組より相談員、連研担当者が出席して連研の現状や課題等について話し合われました。

今回は、社会的問題にもなっている「いじめ」の問題を取り上げ「いじめ・自死・虐待等、現代の悩みや問いにこたえるために」をテーマに、宮本義宣中央相談員より「いじめを許さず、いじめられている子を孤立させないことが大切」と問題提起がありました。

全体会では、どんな小さな悩みにも耳を傾けることの大切さ等の実例が出され、いのちの尊厳を損なうような身近な問題を課題にし、共に法に問い聞く中でお寺が人々の不安に寄り添い、悩みに応えていく場となること、連研の果す役割でもあること

とを確認させていただく研究会でした。

なお、自死の表現については、「自殺」という表現は、つらく心に突きささるといふ遺族の気持ちを受け止めて、宗門では自死と表現していることが報告されました。

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社 **古田た佛具製作所**

営業時間／午前9時より午後5時30分 定休日／日・祝日

〒600-8227 京都市下京区七条堀川上ル菱屋町(西本願寺前)
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
http://www.furuta-butugu.jp

第八回中四国ブロック仏社会員研修会

感話「親鸞さまが好き」

江津組仏社連盟 西本佳矩

十月二十七、八日の両日、山陰教区が担当番教区となり、松江市・ホテル宍道湖を会場に二五〇名に及ぶ熱心な会員の参集により「第八回中四国ブロック仏社会員研修会」が盛会裏に開催されました。

テーマは「世のなか安穩なれ」。初日はご講師小林顕英の基調講演で、特に俗信迷信に関わるお話に心をひかれました。二日目は各教区からの発表がありました。平素の活動状況や、連盟化を見据えた今後の仏壮に対する思いなど、有意義な発表がなされました。

担当教区ということ、私に「感話」の役が当たりました。これまでお聴聞を重ねて味わわせていただいた味わいや、小林先生のお話をお聞かせいただいたの思いなどを述べました。

「親鸞さまが好き、浄土真宗が好き……なぜ？」

聴聞の積み重ねの中で、自然にねんに、その教えが感得されたからだと思っています。浄土真宗のみ教えを真実の教えとうなずくと、親鸞さまのお姿は、たとえそれが銅像であろうとも、自然に頭

が下がります。

親鸞さまは七高僧をはじめとするよき師から受け継がれたお念仏のみ教えを、浄土真宗として明らかにされました。この教えは時代を超えて、現代に通用する真理だと受け取り、味わわせていただいています。

例えば、人間は欲ばりで、ねたみやそねむ心を持ち、自分さえ良ければと、あくせくしながら日々を送っています。また、日の良し悪しなどの迷信に振り回され、占いや呪い、祈祷などに頼り、自分の思い通りに物事が運ぶよう願っています。

そうしたものをきっぱりと否定され、人々に正しいものの見方を説かれたのが親鸞さまです。「人間のものさし」では利己心が入り、公平無私の心からの判断は難しいものです。究極は仏の目、「仏のものさし」が必要なのがこの世、人間の娑婆の悲しい姿だよと教えられています。

「仏のものさし」を心に刻みながら日々を送りたいと感じております。

帳 楽 憂

過疎地での護寺奮闘記

益田組 萬徳寺住職 寺戸聖士

「今それがあなことを言うてくれてもやれん、報恩講が済むまではよう取りあえんけえ：」

寺の報恩講の二日前、老坊守のいつものセリフが聞こえた。

我が寺の報恩講（十一月中旬頃）前にはてんやわんやの忙しさだ。特にお斎の下準備に追われる老坊守には次から次へと仕事が続いている。若坊守は勤務があり、報恩講当日くらいしか対応できず、全ては老坊守一人にかかっている。

法座でのお斎はつきものであるからやめるわけにはいかない。特に我が寺のように過疎高齢化が進んだ山村では、隣り近所の門徒も少なく法座の時のお手伝いも全く不十分である。現在は、年老いた近隣門徒夫婦の方々が何とか協力して支えていただいているが、今後将来のことを考えるとどうなるであろうか、心配はつきない。

参拝される方々も高齢者が殆ど

で、交通手段もなく、遠い門徒の方は現在車で送迎させていたでいる。不安要素ばかりの我が寺であるが、幸い一つだけいいことがある。それは、門徒の方々（特に総代の方々）がご法義を持ち、お寺に対して協力的であるということ。このことが、今なんとかお寺を支えている原動力となっている。

「お寺離れ」が進んでいる世情の中で、こうした姿は多分今後の若い世代にも引き継いでいただけることと思う。

人が減り、門徒が減り、護寺が難しくなってきたが、何とか「智恵と工夫」で乗りきろうと奮闘している今日この頃です。



告知板

築30年有余年、老朽化の著しい「本願寺山陰会館」改修にむけて始動

去る二〇〇七(平成十九)年三月十四日(水)招集の「二〇〇六(平成十八)年度山陰教区定期教区会」において、親鸞聖人七五〇回大遠忌を記念して、本願寺山陰会館建物の改修事業を実施するため、これに必要な体制を整備することを目的とする「山陰会館増改築推進委員会設置規則」の区分令が満場一致で可決されましたので左記の通りご報告いたします。

これに基づき、第1回目の該委員会を八月三十一日(金)に開催。このとき設置の決定を受けた小委員会が十月十五日(金)、十二月十七日(月)の両度に亘り開会され、鋭意、慎重審議されており次回は、第三回小委員会を一月十八日(金)に開催する予定です。

記

平成十九年山陰教区区分令第二号

山陰会館増改築推進委員会設置規則(目的)

第1条 この区分令は、親鸞聖人七五〇回大遠忌を記念して、本願寺山陰会館建物の改修事業を実施するため、これに必要な体制を整備することを目的とする。

(設置)

第2条 前条の目的を達成するた

め、山陰教区教務所に、山陰会館増改築推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項をつかさどる。

一 増改築にかかる調査・検討に関すること

二 増改築にかかる計画案の策定とその推進に関すること

三 前各号のほか、必要なこと

第4条 委員会は、委員長、副委員長各一人及び委員若干人で組織する。

2 委員長は、教務所長をもってあて、委員会を代表し、会務を統理する。

3 副委員長は、委員のうちから教務所長が指名し、委員長を助け、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 委員は、宗会議員、教区会議員、組長、教区関係者及び学識経験者のうちから、教務所長が委嘱する。

5 委員の任期は、2会計年度とし、

再任することができる。但し、補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

(招集)

第5条 委員会は、教務所長が招集する。

(意見の聴取)

第6条 委員会は、必要に応じて、学識経験者その他関係者を招致して、その意見を聴取することができる。

(教区会の承認)

第7条 委員会で調整し、決定された事項については、必要のつど、教区会に報告し承認を経るものとする。

(経費)

第8条 委員会の運営経費は、教区会計をもって支弁する。

(運営)

第9条 この区分令に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って決めるものとする。

附則
この区分令は、平成十九年四月一日から施行する。

氏名	所属寺		備考
	組	寺院	
◎三明浄信			教務所長
○小笠原寧之	仁摩	満行寺	教区会議長
鈴木恭之	神門	明顕寺	宗会議員
小笠原義宣	邑智東	西福寺	宗会議員
布野信之	神門	長楽寺	宗会議員
武田 宏	出雲	成福寺	教区会議員
禿 晴雄	飯石北	専正寺	教区会議員
林 正朗	石東	松林寺	教区会議員
松林 茂	川本	福泉寺	教区会議員
竺川紹隆	福屋	浄光寺	教区会議員
衣笠告也	因幡	願正寺	教区会議員
竹下正俊	仁摩	満徳寺	教区会議員
上領清一	鹿足	常光寺	教区会議員
吉本 清	伯耆	真光寺	教区会議員
日溪清毅	神門	正蓮寺	組長会長
原田光生	大家	浄土寺	組長副会長
高野顕信	松江	西宗寺	組長
大石寛隆	石東	大恩寺	組長
朝枝弘照	邑智西	西善寺	組長
須山矜治	鹿足	正法寺	組長
西元一道	伯耆	本巖寺	組長

◎委員長 ○副委員長 (敬称略)

京仏壇京仏具・お仏具ご修復 ご本堂内装・お納骨壇



創業 安永4年(西暦1775年)

京仏具 小堀

http://www.kobori.co.jp/

本店/〒600-8159 京都市下京区烏丸通正面 上る
TEL (075) 341-4121(代) FAX (075) 341-4128
☎(本店) 0120-27-9595 (受付時間9:00~19:00)
Eメール(本店) info@kobori.co.jp 無料冊子をどうぞ

東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房
お仏壇専用サイト Yahoo! Shopping ストア-小堀 http://store.yahoo.co.jp/kobori/
京仏壇・京仏具の製作現場をご覧になっていただけます。

ご希望の方は、事前に本店へお申し込みください

御本山御用達 開明社員

袴・袴袋
旗・旗印
旗・旗印
旗・旗印

井筒法衣店

代表取締役社長 幾田 潤

(〒600-8503) 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

フリーダイヤル TEL 0120-075-720
フリーダイヤル FAX 0120-075-490



『訪導』とともに歩む念仏の道をスローガンとして掲げ、去る九月三十日温泉津組瑞泉寺において宣教会創立百周年記念大会を賑々しく開催することが出来たことは、会員はもとより有縁の念仏者の慶びであった。

この大会を開催するに当たり、二〇〇五年七月二十五日、温泉津組願楽寺において第一回実行委員会を開催。以後十数回にわたって会議を開



宣教会創立 百周年記念大会追想

代表 龍野 清閑

をいただいた。

内容的にも「静かに聴聞」と「インパクト」があり「思い出に残る」ことをと、多くの門信徒の協力も

いた。スローガンはいわゆる大会の「顔」ともいえる大切なもの。多種多様な案が出されたが、安楽集のご文から『訪導』

と、出店が立ち並び一躍「瑞泉寺銀座」となり、老いも若きも子どももお昼の二時間を楽しんだ。いみじくも今年は宗祖親鸞聖人がご流罪になられ八百年。講師天岸浄円師の講題も「『愚禿の名のり』」承元の法難八〇〇年」となり、参拝者八百余名と共に親鸞聖人の御苦勞を偲ばせていただいた。

(仁摩組龍善寺)

石見聞真会創立 百周年記念大会を機に

代表 西水 敏之

石見聞真会は、明治四十一年に発布された戌申詔書の趣旨を頂戴し、石見真宗寺院住職が一致協力して、軽佻浮薄なる社会相を糺さんと躍起し結成した教化団体である。

年は移り、月は流れて、この度創立百周年を迎えた。時あたかも親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に向けて消息の意を体し、ご一流を汲まして頂く僧俗が、道念を篤くし、報謝の業行にいそしむべく新たな始まりとして、このご勝縁を門侶が結束すべき恰好の機と願ったことである。

「急激な社会の変化で、一人ひと

りのいのちの根本が揺らいでいるように思われます。私たちは世の流れに惑わされ、自ら迷いの人生を送っていることを忘れがちではないでしょうか」と。

日常無為に没するわれらへ、覚醒の厳しい警鐘といただきます。

多くの先輩諸氏は、きびしい時代にも、先祖を敬慕し、聴聞に励まれ、愛山護法の思念とともに、よき伝統を築いて下さいました。

この創立百周年記念大会を機に、私たちは只管に聞思して遅慮することなく、いよいよ「ともにいのちかがやく世界へ」のスローガンのもと、共有のこころを広め、共感できる会として、決意を新たに邁進してまいります。

(邑智西組如伝寺)

お仏壇・仏具はやっぱり京都…



創業 天保元年(1830年)

伝統工芸 京仏壇・京仏具

(株) 若林

京都本社 / 〒600-8218
京都市下京区七条新町東入
☎ (075) 371-3131(代)

東京店 / 〒146-0081
東京都大田区仲池上2丁目8-13
☎ (03) 3755-8488(代)

近江草津店 / ☎ (077) 564-1011
築地店 / ☎ (03) 3546-8228(代)

札幌店 / ☎ (011) 512-3455(代)

仙台店 / ☎ (022) 213-0666(代)

福岡営業所 / ☎ (092) 761-3737(代)

フリーダイヤル(各店共通) / ☎ 0120-37-8585
ホームページ <http://www.wakabayashi.co.jp>
Eメール info@wakabayashi.co.jp

昭和33年10月
たった1台のタイプライターから
当社の歴史は始まりました



あなたの要望を形に！
商業印刷
印刷の原点はここにある
出版印刷
活用方法は無限大
マルチメディア制作
出力サービスもおまかせ
オンデマンド印刷
イベント用ポスターなど

株式会社谷口印刷
TANIGUCHI PRINTING CORPORATION

〒690-0133 松江市東長江町902-59 朝日ヒルズ
TEL (0852) 36-5888 FAX (0852) 36-5889



『ゼロ歳児から百歳まで』

— 門徒による手作りの法座 —

福屋組・千田 浄光寺 能美 紹隆

老いも若きも仏の子

みんな集まれ仏の子

今年も恒例の「ふれあい法座」を四月二十二日(日)に開催しました。当日はゼロ歳から最高齢九十五歳まで、あらゆる年代層から二百名を超える参加がありました。

この法座は、親鸞聖人降誕会を縁として開き、今回で十八回目を数えます。すべて門徒の役員で組織される実行委員会運営。構成メンバーは総代・仏壯・仏婦役員そして世話人代表の四十数名です。事前に企画会議が開かれ、綿密な準備がなされます。

聖人のご生誕を祝い、お育てをよろこぶ手作りの法座で、浄光寺の年間の法座の中で一番はれやかな明るい行事です。多くの家族連れで賑わい、子供たちも沢山参加します。

初参児・小学校入学児・年齢の節目(還暦・古希・喜寿・米寿・九十歳・百歳)を迎える方々とその家族を招待し、参拝の門信徒皆でお祝いしご縁に遇います。

てあります。

踊りや歌、ゲームなどの出し物も

あり、阿弥陀さまの温もりの中、世代を超えた交流で終日よるこびに包まれます。

該当者全員に、お祝い状や記念品を授与。紅白の餅、弁当等が参拝者に配布され、祝賀くじも全員にもれなく用意され



光輪寺門徒総参拝

因幡組 光輪寺 佐々木智眼

平成十年に光輪寺本堂が山門の百五十年ぶりの大修復が完了したとき、門徒会の皆様からの発案で門徒総参拝のとりくみが発案しました。外側は出来た、これからは中身の充実だというご意見だったので。ま

ずお寺に集合することが先決であ

る。子供も大人も大集合の合言葉のもと二年に一回のとりくみの出発でした。テーマも設定しました。「お寺は何をするところ?」「アミダさまってなあに?」「生きるってどんなこと」いままでの内容としては、「ご法話」「お楽しみ抽選会」「話し合い法座」「仏教讃歌のつどい」「手品」「人形劇」「影絵」「婦人部バザー」「各種食べ物コーナー」|| ヤキトリ・豚汁・オニギリ・焼きソバ・喫茶・ヤキイモ・タコヤキなど、大盛況です。今年は「納棺体験」もしました。

毎回のこの催し物には、二百人以上の方々が参画されます。婦人部・壮年部・老人部・青少年部の役員の方々には、毎回お世話になりっぱなしです。このとりくみが、更に輪を広げて気軽に参れるお寺にと願っています。



教育者として、念仏者として、その79年間の生涯の深奥から 発せられた言葉の数々



人が生きる根を育てる

東井義雄さんの軌跡 中川真昭 著

● A5判・並製本348頁 ● 定価1,680円(税込)

教師として数多くの輝かしい業績を残した東井義雄氏。その生き方と多くの詩や言葉は、今なお人々を魅了し続けている。東井義雄氏の一般的に知られていない教育者としての一面だけでなく、仏教者として生きた素顔にも迫り、79年間の生涯を数多くの詩や文章とともに振り返り、綴る。



最新刊

西本願寺の本

教学研究センターブックレット

史実と伝承の聖人像

浄土真宗教学伝道研究センター 企画・編集



親鸞聖人750回大遠忌を前に、教団の伝統として伝承された聖人像を、最新の学術成果、特に歴史学の成果を通して検証する。時代状況に対する親鸞聖人の姿勢に学び、その実像に迫る中で、「承元の法難」800年後の今日の浄土真宗のあり方を模索する。

■ A5判/840円(税込)

